

理科 第3学年 こん虫のかんさつ 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：観察した共通点や違いを基に、「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」につながる問題を見だし、表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(1)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：校庭の安全な場所で見付けた生き物を、体の形と見付けた場所を対にして記録する。拡大写真で頭・胸・腹と脚の付く場所を調べ、昆虫以外の小動物とも比べる。名前が分からないものは勝手に決めず図鑑で確かめる。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：小さい生き物は全部昆虫という判断には、体の分かれ方と脚の付く場所を比べる。見付けた場所の数だけで好む場所を断定せず、餌や隠れ場所も観察する 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。昆虫以外との共通点と違いを分類する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：ハチなど危険な生き物は近づかず観察を中止する。捕獲は必要最小限にして元の場所へ戻し、虫を触れない児童は写真で観察する 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：校庭の安全な場所で見付けた生き物を、体の形と見付けた場所を対にして記録する。拡大写真で頭・胸・腹と脚の付く場所を調べ、昆虫以外の小動物とも比べる。名前が分からないものは勝手に決めず図鑑で確かめる。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全5時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「見付けた虫の体やすむ場所には、どんな共通点と違いがあるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。新たに調べたい問題を記す活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

